

問5 (9)シラバス作成の各層の受け止め方について

(ウ)事務官の受け止め方(概括的にご教示下さい。)

- ・概ね良好
- ・比較的良好
- ・良好
- ・良好、リアルタイムの情報は冊子には限度がある。
- ・良
- ・好意的
- ・好評
- ・概ね好評
- ・好評(学生課等の授業内容に対する質問の減少等)
- ・必要と考えている。
- ・肯定的
- ・おおむね肯定的
- ・有意義である
- ・特に問題はない
- ・内容的に不十分と考える。(教官の熱意が感じられない)
- ・学生にとって講義の指針が示されるので好評である。使用教科書の掲示等が略ける。
- ・目標を持った授業が可能となり学生に指導しやすくなった。
- ・授業内容が把握できた。

- ・学修指導の資料として活用されている。
- ・学生にとって授業内容をある程度理解したうえで履修するため履修手続き等がスムーズになる。
- ・履修手続きをする上で多いに活用されているものと思われる。
- ・学生の履修指導に役立っている。
- ・授業内容等がわかり学生に対して説明等しやすい。
- ・授業の内容等詳細について把握できカリキュラムの検討資料としても活用できる。
- ・授業科目を把握するのに役立っている。
- ・事務上の学生、教官等との対応がやりやすいのではないかと考えられる。
- ・カリキュラムの内容のガイダンスが簡略化できた。
- ・履修の相談時等に活用し、事務の効率化に役立つ。
- ・開設科目の内容を把握するのに役立つ。
- ・学生が履修するうえで有効と思われる。
- ・授業内容が理解でき履修指導がやりやすい。
- ・カリキュラム、履修方法についての相談に役立っている。
- ・教務的及び学生指導のアドバイスとして参考にしている。
- ・学生への情報提供として役立っており、事務側でも科目等の授業内容の把握に便利であり好評である。
- ・教務系の事務官にとっては、学生に履修指導を行う上での資料として活用できるため有用である。
- ・履修指導上の有益な資料。

- ・授業内容の明示により、その概要、展開と受講にあたっての必要な事項を学生に伝えることができる。
- ・学生の履修指導、科目選択に役立った。
- ・教官の授業内容が把握できる。
- ・各授業科目の内容及び授業の予定等がわかり教務事務がやりやすくなった。
- ・各授業を把握するために必要。
- ・各授業科目の概要が把握でき、履修指導に役立ち概ね良好である。
- ・教務関係事務官が学生ガイダンスに利用でき活用されている。
- ・すべての授業の内容を以前より詳細に把握することにより授業関係事務がスムーズに行える面がある。作成上の事務に関しては、原稿から印刷まで、様式を決めたり印刷方法を工夫するなど省力化は可能と思われる。
- ・各授業科目の内容等が分かり便利である。
- ・窓口対応がしやすくなった。
- ・授業内容等の問い合わせに答えられるので、教務事務上助かっている。
- ・教務学生掛での窓口で指導する際に十分に活用できる。
- ・教務関係の仕事をする上で、学科の授業がどのように進められているかを知ることができる。
- ・科目等履修生志願者等からの講義内容等の質問に事務官だけで対応できるようになった。また、学生からの講義内容等の質問が少なくなった反面作成に係る事務量が増した。
- ・学生や他大学、学部等からの履修等に関する照会に対し、授業内容に関わっても一定の対応ができる。また、所属する学部の教育内容についても概括的把握が可能となり、事務遂行上の参考となる。
- ・学生が履修する上で情報量が多くなり学習目的に添った選択がしやすくなった。授業内容の把握が事務官にも容易になった。

- ・学生への履修指導をする上で必要である。
- ・学生からの履修方法等に関する窓口相談に役立つ。
- ・学生からの質問等への対応に便利。
- ・学生に対する履修指導に有益。
- ・オリエンテーション、修学指導がスムーズに進んで好評。
- ・学生の科目選択のための情報提供として活用されている。
- ・学生の修学指導に利用できる。
- ・ガイダンスの資料になり学生の修学指導に利用できる。
- ・教官の授業内容について知ることができ窓口対応等で役立つ。
- ・修学指導に非常に参考になっている。
- ・他学科聴講など窓口での学生の修学指導が容易になった。反面作成に要する事務量が格段に増大した。
- ・窓口業務で学習指導がしやすくなった。
- ・各教官の授業内容がわかるので事務的に便利な点がある。
- ・窓口での修学指導がやりやすくなった。その反面、作成に要する事務量が格段に増大した。
- ・修学指導を行う上での資料として役立てることができる。
- ・学生に対する履修指導に役立っている。
- ・教官の授業の様子がわかり、学生その他からの質問に対し対応しやすくなった。
- ・教官の授業内容・方法が把握できるので、教材準備等事務上の参考となる。外部からの授業科目、内容等の照会に対する回答等に役立っている。

- ・ 教官の授業内容をより具体的に把握でき、学生に対する履修指導等に役立った。
- ・ 各教官の講義内容等で学生への履修指導ができる。
- ・ 授業科目の内容等が詳細に記載されるため、窓口での履修指導がやり易くなった。
- ・ 授業内容が明らかなため履修指導する上でやり易くなった。
- ・ 履修手続き等でのガイダンスの資料として役に立っている。
- ・ 学生への情報提供、修学指導事務の効率化等が評価される。
- ・ 学生が個々の授業内容を知ることができ、選択科目の履修時に自分の興味のあるものを選択できる等、利点があると考えている。
- ・ 学生係としては、学部内外に対して授業内容などの説明が容易になった点にメリットがあるとしている。
- ・ 学生へのガイダンスがやり易くなった。
- ・ カリキュラム全体を把握できたため時間割や各種資料の作成、また学生の履修指導等に役立っている。
- ・ 教官の研究内容(講義内容)を把握することで、業務上、円滑に事が進む事もあるであろうと考える。
- ・ 学生の履修指導が容易になった。
- ・ 担当教官や授業計画等が正確に把握でき、諸事務手続きの参考になった。
- ・ 編集作業等において事務量が多くなり苦慮する面も多いが、作成のメリットが多く積極的である。
- ・ 作成に大変な労力をついやす半面、教務事務を担当する者として授業の全体像を把握することができる。
- ・ 必要性は十分理解しているし、作成してよかったと思うが経費がかかり過ぎる。

・教育内容がこれほど詳細に明示されることは画期的であり、意義あることと考えられる。今後は作成の目的について、十分な効果が上がるよう充実させたい。

・余分なものを排した内容で、盛られている情報は若干少ないくらいがあり、より充実に向けて検討すべきである。

・学生サービスの観点から必要不可欠と考える。

・学務系とその他の事務系ではおのずと意見が違ふと思うので、ここではよりシラバスと密接な学務系事務官の意見を書きます。

各教官から膨大な量の原稿を集め、それを年度末に纏めると言うのは大変な仕事である。大学改革を進めるためとか、自己点検・評価には不可欠なのだなど、作ることの意義は十分分かるが、はたして一人一人の学生はこの分厚い一冊のなかのどれ程を実際に参考としているのかを考えた時、釈然としないものを感じ、同等の効果を期待する方法としては、別な方法もあるのではと思う。

・学生が科目を選択し学習準備をするための必要性を理解している事務官が多いようである。作成のための事務量は増大しており対応について苦慮しているようである。

・多大の労力と経費をかけて発刊しているので、学生の実効ある使用を望む。そのために更に利用し易い内容にする等検討を重ねていくことが必要であると思う。

・学生の教育を充実する一つの方法であり、さらに内容の充実を図り継続発行していくためにも予算措置を願いたい。

・初めての作成でいろいろ苦労はあったが、授業に関する情報を従来よりも詳しく、学生に対して提供できて良かった。

・学生便覧とあわせて、内容が詳細に明記されているので活用しやすいこと。

・他学部等外部の学生からの問い合わせに対しても利用出来る。

・学外からの教員の研究分野に関する照会に対して、これまでよりも回答が容易となった。

・部外者への授業内容の説明並びに演習や外書講読等の事前受講調整等については重宝している。

・科目等履修生等外部からの照会、依頼に対応している。

- ・外部からの授業内容の照会等には便利である。掲載内容が増えた分原稿のとりまとめに時間がかかり苦勞する。
- ・科目名(英語文字含む。)、科目の概要、単位、担当教官が一目でわかるため、外部に対して説明がしやすい。
- ・外部からの問い合わせ等に非常に役立つ。
- ・外部からの紹介(課目等履修生)には有効的に活用している。
- ・学外者一般への情報提供の資料として役立っている。
- ・教官の授業に対する熱意が伝わってくる。授業内容の把握が出来ることにより教官に対しての理解が深まり、学生への対応も適切に行える、又他省庁より教官の授業及び研究内容等の情報提供依頼等に活用出来等、好評である。
- ・各授業科目の講義内容が一冊にまとまっているため、外部からの内容照会に答え易い。
- ・授業担当教官の講義内容がわかることにより、外部からの照会に対する対応ができる。
- ・対外的に講義内容を紹介する際に有効である。
- ・各教官がどのような授業を行っているかがわかる。また科目等履修生や聴講生の募集時に活用することができ外部から見学に来られた人にも 学校の授業内容を知ってもらう上で役立っている。
- ・外部からの問い合わせ等に資料として活用。
- ・授業科目の内容等が分かり易くなったので、外部からの問い合わせにも十分対応出来るようになった。
- ・「教科目系」によって非常勤講師の多い分野では、印刷原稿の取りまとめや集約が遅れ気味となり校正の回数が多くなっている。履修指導上は不可欠のものと考えている。
- ・作成して一年目なので、まだ評価は出ていない。
- ・図書館や各学科図書室に全体のを備え付けておき、個々については各教官が授業のガイダンス時に学生に配布すれば足りると思われるので冊子にして配布すべきか疑問である。

- ・各回ごとの授業内容や具体的な成績評価の方法などについても掲載できればと考えている。
- ・学生への情報提供ができてよい。
- ・当初事務方で清書作業をしていたが、物理的に不可能となり今年度から教官に作成の主体が移された。
- ・全体の流れと内容が把握できる。
- ・教官によって精粗の差があったり漏れている科目があったりすることは困る。
- ・とくに内容面に関しての評価はきかない。
- ・事務的に支援している。
- ・今後、個々の授業科目の廃止、授業科目名の変更、新規開講に伴う授業科目の追加等が予想されるが、事務側で例年 校正照合等の作業が少なく済むような方法を確立していただきたい。
- ・「シラバス」作成以前より、「開講科目の案内」を作成しており特に変化はない。
- ・教務関係事務官が学生ガイダンスに利用でき活用されている。
- ・印刷製本に比べるとデータベース化により、教官が直接電子メールで提出するので、事務簡素化ができる。印刷製本でのシラバスの配布は経費負担が大きいですが、データベース化により軽減できる。
- ・電子シラバスをインターネット上で公開したことは今後のシラバスのあり方の一つを示したと思われる。ただしセキュリティーなどの問題点も多い。
- ・諸調査に事務的に役立つ。
- ・一つの授業を複数の教官が担当する場合、担当する期間がわかる。
- ・教官との一層の密接な連絡が必要である。
- ・今後改訂を続けていく必要があるが大量の改訂箇所が予想されるので、十分な準備が必要となってくる。

- ・授業内容の情報源として役に立つ。共同研究プロジェクト編成等の資料作成に役に立つ。
- ・データベース化の方向を推進、事務能力の向上を図る。
- ・履修方法の多様化にともない、シラバスの作成は今後も必要である。
- ・情報公開上役立つ。
- ・履修指導に役立った。学生による授業評価があったほうがよい。(作成のため)事務量が増加した。
- ・授業内容について詳しく知ることができる。
- ・来年度から導入される新カリキュラムは、学生の選択の幅が大幅に増すため、それに伴う科目選択に迷うことがないよう、学生への履修科目の指針となると思われる。
- ・印刷までの作成に労力が必要。
- ・資料として活用できる。
- ・シラバスの内容を充実し、また読み易い冊子を作ることによって、学生に授業科目選択の機会を保障しなおかつ履修登録期間の短縮及び授業開講日(オリエンテーション)からすぐ履修登録開始等授業科目毎の受講者名簿を速やかに作成することによって授業運営の円滑化が図れる。
- ・連絡先が明確になった。
- ・作成の手数はかかるがそれなりの効果はある。
- ・情報提供をすることで学生へのサービス向上。
- ・教官の授業予定を把握するのに便利である。
- ・教材の準備、教室の割振り、AV装置要求の参考となる。
- ・事務で印刷しているので若干負担になっている。
- ・作成に要する業務の増大。

- ・事務処理上、シラバスから多くの参考事項を得ている。
- ・シラバスに対する教官の意識が希薄。予算措置。内容をさらに充実する必要がある。作成方法等の改善。大学全体として方針を立てる必要がある。
- ・現在の「講義内容」では、シラバスとしては、不十分なので、内容をより一層充実できるようにしていきたい。
- ・役立っている。
- ・学生からの授業内容の質問が少なくなった。
- ・授業を選択する上においても、事前に講義の内容が把握できるのはよいと思う。
- ・学生の履修に際して、受講科目の必要性や重要性を認識させることができ、参考文献や資料等に関する情報を個別に伝えなくてもよいようになった。
- ・カリキュラムの変革期でもあり、事務的にも作成労力が大変である。
- ・授業内容について他からの問い合わせに対して回答しやすい。受講生数の多少について要因等がつかみやすい。
- ・授業を担当する側、受ける側相方にとって非情に有意義であると思われる。
- ・学生厚生補導に便利。
- ・イ)と同様 (注)冊子が厚いので持つ運びが不便であるその改善策としてシラバスをデータベース化し、各所に端末を備えそこから検索できるように、現在その構築中である。
- ・学生をはじめ、種々照会に対して授業科目の内容が把握できる。
- ・改善すべき点がある(編集方針も含め)。
- ・現在のものが厚く重いため、科目別あるいは開講期別に分冊することも考えている。
- ・学生の受ける利便が多く、作成して良かったと考えている。
- ・出身、背景を異にする学生に対し、希望にあわせた授業計画が提示できる。

- ・授業に関して学生への対応に役立っている。
- ・7年度の初めて作成したものであるため年々内容を充実し効果あるものとしていきたい。
- ・原稿集めワープロ入力作業編集等に多大の労力が必要となり日常業務にしわ寄せが生じている。
- ・授業をサポートする立場から、授業計画を立てやすく大いに有用である。
- ・原稿が集まりにくい。校正に時間がかかる。
- ・調書等作成の際の参考資料。
- ・作成は大学入試センター試験・本学試験等で忙しい時期と重なり大変であるが、学生の履修上必要と思う。
- ・大学入試センター試験・本学試験・新学期受入れの準備で一番忙しい時期に新しい仕事加わりこれを仕上げるのが大きい負担である。
- ・非常に有用ではあるが単純なものに改善することが必要。
- ・(8)の理由により、特に現時点で評価、意見の聴取を行っていない
 (注) 平成8年度以降は、各授業の内容要旨について掲載内容を充実させた「講義概要(シラバス)」として発行予定であるが、平成7年度までは、「授業科目履修案内」として履修細目、科目表、学則等諸規程、各授業内容要旨等を併せて掲載し発行している。このため必要不可欠の冊子であり、特に評価意見の聴取は行っていない。
- ・より役立つものにしたい。
- ・学生の履修計画により役立つものにしたい。
- ・大学教育の充実のためには、シラバス作成は当然である。
- ・シラバス又は講義要綱のいずれか一方で充分である。
- ・個々に配布できるような予算があればと願う。平成7年度が第一回目の試作品であったのでさらに充実したものを作成できるよう努力したい。
- ・学生がもっと活用できる形式等に改正する必要がある。

- ・学生に対する個々の授業に関する案内をする必要がなくなる。
- ・具体的には、今後アンケート調査を実施し評価する。
- ・要した経費を考慮すると、さらなる活用方法を検討する必要がある。
- ・カリキュラムを効果的に実施する上でシラバスは不可欠のものである。
- ・学生、教官から好評である。
- ・基本的には賛成であるが、事務量が多くかなりの負担になる。
- ・サイズや頁数を検討する必要がある。
- ・卒業判定時に非常に有益である。
- ・学生指導に役立つこと、また教官の授業計画を知ることのより教官への連絡や各種調査に役立つ。
- ・事務量は増えたものの教育、研究に役立っていると思われる。
- ・群馬大方式のシラバスを作成したいと提案したが、全教官の協力が得られなかった。
- ・大学改革の時期に際して、かなりの複雑な作業が求められる。
- ・カリキュラムを検討していくうえで、会議等の資料として有用である。
- ・工学部は7学科あるので、学科ごとのシラバスは利用しやすい。
- ・学部教育の充実を図るうえでシラバス作成は不可欠であり、今後さらに内容の充実を図る必要がある。
- ・一冊にまとめる必要はない。記載内容(事項)を検討すべきである。
- ・冊子にするとぶ厚くなるのでパソコン方式の方が合理的ではないか。
- ・科目内容等の一般的問い合わせに対する説明が可能である。
- ・労力と経費がかかるため予算措置が必要である。

- ・スライドやOHPの準備が事前にできる。
- ・授業効果のうえで役立っていると思う。
- ・教官の講義内容が分かるので良い。授業内容のオーバーラップが避けられて良い。
- ・授業内容(どのような授業が行われているか)、担当教官(誰が行っているか)等が明らかになっており、利用し易く好評である。
- ・好意的だが、作成担当者の負担の増大が懸念されている。
- ・事前に授業内容、単位数、履修上の注意及び評価方法等を知らせることにより、学習意欲の向上等が図れると考えている。
- ・学生から履修についての問い合わせが以前より少なくなった。
- ・作成に苦勞している。
- ・頁数が多くなり分厚く携帯に不便。原稿の校正に時間を費やす。
- ・教官と学生がシラバスを生かして充実した授業を行って欲しい。
- ・教育内容、方法の改善に役立つと思われる。
- ・授業内容説明に活用。
- ・編集を年間一回にする等改善が必要。
- ・コピー、製本等の事務量の増加になっている。印刷、製本費等の予算措置必要である。
- ・発行体制((編集体制)等)について検討する必要あり。事務量増大。データベース化が必要か。
- ・学生、教官だけでなく事務サイドでも利用できるのよい。本学のことを学外にアピールする資料として活用できる。
- ・講義概要を知ることにより、教育、研究が身近に感じられ、一体感が増す。

・学外者に対して各教官の教育内容を示す参考となった。学生は予想以上に利用している。学務関係職員は教官の教育内容を知るうえで参考となった。

・各教官及び、学科単位の授業計画等を容易に把握できるようになった。

・学年毎に作成した方が経費のムダを省けるのではないか。

・学生の勉学の一助となることができればよい。

・学生へより多くの情報を提供するという面では良いと思う。

・テキスト等が書かれており学生が授業を選択するときの参考となると思われる。

・履修登録時にはよくシラバスを見ているので、選択の参考になっていると思う。

・特に意見は集約していないが、学生のコース選択に大変有益であるとの意見が多い

・特に現れていない。

・事務用の資料としては有用である。

学生配布用としては必要経費に見合った利用価値はない。

理由：課程・専攻等を越えて履修することは少ないので、学部の全授業科目のシラバスを各学生に配布するのは無駄が多い。必要な情報だけを入手できるシステムを早期に稼働させた方がよい。

・現在のシラバスは元々学生配布用として作成されたものとはいえない。

・必要性は大いに理解できる ・入学してくる学生の多様化に伴い、適格なるガイダンスとなっている。

・シラバス作成により学生に対する教務指導がより統一的で整合性のあるものとなった。

・機能・系統別カリキュラムにそったシラバスのため完成までには校征等に多大な労力を要する。

・シラバス作成の効果と教官及び学生の活用度を調査、検討する必要があると思う。

・講義の回数、担当者等が明確となり、諸調査の際の参考資料として活用することができた。

問5 (10) シラバス作成に要した経費等について

(イ) 作成に関してどのような予算措置が必要とお考えですか)

- ・印刷経費、打ち込み(外注)経費。
- ・印刷費の全額ではなく、一定比率での補助制度を作ったらよいと思う。
- ・作成、印刷経費、データベース化経費等の補助が必要。
- ・最低限シラバス印刷経費の全額支給。ワープロ入力のアバイト経費。
- ・シラバス印刷経費
- ・印刷製本費。
- ・印刷経費の増額。
- ・作成に要した印刷費は配分願いたい。
- ・印刷製本に要する経費の保障
- ・印刷費のみの予算措置でよい。
- ・充実したシラバスを作成するための印刷に係る予算措置。
- ・特に原稿作成のための経費。
- ・手書き原稿で作成されたものを業者でワープロ打ちさせるための予算措置。
- ・作成にあたってのアンケート調査費用について措置されたい。
- ・印刷費の予算措置。
- ・印刷費用。
- ・印刷費、デザイン、レイアウト費、人件費(資料整理のため)、調査費等の経費の確保。
- ・他機関等のシラバス発行の実情を調査するための経費。

- ・製本費がかなり高つくため、その予算的措置が必要である。
- ・校費(印刷、製本費)。
- ・印刷・製本費として校費の増額。
- ・印刷・製本に要する経費。
- ・校費(シラバス印刷分)年度当初に配分してほしい。
- ・シラバス印刷費が是非とも必要である。
- ・原稿作成(ワープロ打込み、校正等)にかかわるアルバイト雇用費を必要とする。
- ・印刷・製本経費。
- ・校費(印刷費)。
- ・印刷費。
- ・今年度は事務担当で大部分を作成し安く作ったがミス等がかなり見られたのでもう少し予算をかけた方がよいと思う。
- ・講座費からの回収。
- ・データベース化するため、各学生研究準備室等へのクライアントパソコン機の設置
- ・最初に「予算ありき」ではなく、まず「どのようなものを作成するか」が、できれば良いと思います。
- ・学生数に見合った配分措置が必要と思われる。
- ・全額配分もしくは配分割合を増やす。
- ・教育に関する経常経費以外からの配分があるべきである。
- ・経費が現在全額補助されず、以前よりの経常経費を圧迫しているので全額補助をのぞむ。
- ・従来の学生当校費では苦しい。 個別の措置か単価アップが必要。

- ・ 大学で経費（特に印刷費）を全額補助する必要がある。
- ・ 100万円位はシラバス用に準備してほしい。
- ・ V I のとおり （注）本学群では開学当初より各学年毎にカリキュラム書及び講義、実習用のテキストを作成している。シラバス作成にかかる費用は現在、学群校費から支出しているが年々その費用も増大してきているため、学群の運営に支障を来している状況である。教育内容、方法の改善にかかる経費、シラバス作成等にかかる経費については実費相当分を別途予算立ていただきたい。
- ・ 特別な予算措置はとっておりません。
- ・ 学生による授業評価の集計、分析、報告のための経費。授業計画のデータベース化。
- ・ ウ)で回答 （注）本学では、講義要綱の作成経費については、学内予算で賄っているため、それなりの予算（前年度の作成経費が根拠）枠しかない。また学内教官層から、講義内容の充実や詳細の講義要綱の作成及び教育内容・方法の改善に係る意見を多数聞くが、それら作成経費については、なんらかの予算枠で文部省に要求することとなる。また、その年に予算が付いても、それらの作成を経常的に続けるためには、毎年要求を繰り返し行っていかなければならず、場合によっては減額されるという危惧も拭えないため、今後一度付けた予算については、報告書等の簡易な手続きで、毎年同額程度の予算が確保できる予算項目の新設を願いたい。
- ・ ページ数を更に増加して内容を充実するためには現在の写真植字の方法では限界に来ている。大幅に予算を増加し、植字の方法に変更する必要がある。
- ・ 印刷、データベース化等、これからも改善の余地が大きく経費は必要。教育内容も時代とともに変わるので毎年内容をチェックする必要がある。
- ・ 全学共通科目等すべての科目のインターネットでの公開を行った時のサーバー及び管理者等の予算（ハードと打ち込みは出来ても維持管理ができにくい）。
- ・ あらかじめ、予算の中に組込んでほしい。現在は学内経費で要求している。8年度から学部、大学院とも本格的に作成予定。
- ・ 外部に公表する場合。

- ・ 大学整備充実等促進経費の内、授業計画、授業評価作成費。
- ・ 学部で予算措置。
- ・ 本学部においては大学改革推進費(一般分)を充当した。
- ・ 今後内容の充実に伴い、作成経費が多くなるため、特別な印刷経費を組む必要がある。
- ・ 文学部のような予算額が少ない学部には140万はかなりの負担になる。
- ・ 経費がかさむので予算配分時に学部ごとに作成費をつけてほしい。
- ・ 去年度に要した経費を計上する。
- ・ コンピュータ処理ができるだけの予算が必要。
- ・ 研究費に食い込まないようにしたい。
- ・ 印刷製本費等の名目で学部として処理している。
- ・ 印刷方法などを工夫して経費を安くする必要がある。
- ・ 教育方法及び修学指導のための特別経費として予算を確保し印刷代、送料等の負担を軽減したい。
- ・ 学生全員に配布するのに必要な予算措置。
- ・ 教育研究学内特別経費シラバス作成経費。
- ・ 近々抜本的カリキュラム改正を行う予定でありそのためのシラバス作成には多額の支出がかかる見込み。
- ・ 不要。
- ・ 平成 6、7年度とも「大学改革推進経費」で予算措置された。今後も同様に予算措置されれば問題はない。
- ・ 現行方式では特に必要なし。

- ・学部での当初予算で作成しているので特別予算措置が必要とは考えていない。
- ・現在は、学部予算で年度当初に計上しているが、学部予算によらない特別経費の配分が必要と思う。
- ・様式を一本化し全学で予算措置し作成した方が良いと思う。
- ・他の印刷物との関係もあり、一学部として負担が大きいののでシラバス作成も含めたカリキュラム関係作成費を大学全体として予算化する必要がある。
- ・現在は各学部で対応しているがシラバス様式の全学統一に伴い全学的予算措置の継続をお願いした。
- ・あらかじめ全学で。
- ・全学的予算措置。
- ・全学共通科目(教養教育等)については、全学のより一層の協力が必要。
- ・文部省予算の中に大学公報経費の様なものの定着又は学内的には全学的立場での予算事項の定着が必要。
- ・学部負担ではなく大学全体で予算化する。
- ・学部予算からの支出でなく大学負担であるべきである。
- ・大学全体として予算措置を取ってほしい。
- ・全学的に予算が取れるようになることが必要。
- ・特別な経費を大学全体で確保する必要がある。
- ・教室配分経費に影響がないように全学的に予算措置。
- ・学部内で共通の経費として支出しているが全学的な予算措置がほしい。
- ・現在学部共通費で措置しているが、全学的な措置が必要。
- ・シラバス作成にかかる経費の予算措置を別途設けてほしい。

- ・今後とも大学改革推進経費の継続が必要である。
- ・作成にあたっての経費の予算について、別途設けてほしい。
- ・従来作成してきた授業科目一覧表の作成経費以外に上記経費（注300万円）が必要となったことからこれに相当する経費が別枠で措置されたい。
- ・実績に応じて毎年作成のための予算措置が必要である。
- ・本学ではこれまで比較的安価な方法（ワープロによる原稿作成）でシラバスを作成してきたが、今後充実を計っていく上でそのための特別な予算措置が望まれる。
- ・年度ごとの印刷経費の外、各授業担当者がその都度追加印刷できる措置が必要。パソコンによる学内LANを利用し学生が随時新しい情報を得ることができるようシステムを構築する経費。
- ・作成費用が数百万円規模になるためシラバス作成のための指定配賦措置が必要である。
- ・平成7年度版については学部の予算で作成したが、毎年作成を要するものなので、文部省で予算措置を講じてほしい。
- ・継続的な予算措置が必要と考える。
- ・一定の期間、経常経費として、シラバス作成費が必要である。
- ・毎年作成するので例えば「シラバス経費」という指定された予算措置をとってほしい。
- ・毎年作成するので特別な予算が必要。
- ・シラバス作成のために特別な経費必要。
- ・シラバス作成のためには特別な予算が必要。
- ・シラバス作成経費の計上。
- ・毎年シラバス作成費をつけてほしい。
- ・本格的なシラバスを印刷するにしろ「データベース」化するにせよ通常の積算校費ではない特別予算が必要と思われる。

- ・データベース化の予算措置。
- ・別途予算措置を希望する。
- ・「シラバス作成経費」を新たに計上してもらいたい。
- ・作成に多額の経費を要するので、定額で継続的な予算措置が必要である。
- ・文部省から大学への予算配分段階での予算措置を別途に手当てしていただきたい。
- ・現在は予算上、必要最小限のシラバスにとどめているので、学部の案内用パンフレット等とあわせて内容を充実させることが可能な予算措置を講じてもらう必要がある。
- ・全額シラバス作成用の予算措置をしてもらいたい。
- ・作成費用の全額を文部省が別枠でくれることが望ましい。今のままでは近い将来、作成が中止される可能性あり。
- ・データベース化のための情報処理機器整備及びデータ作成に伴う予算措置。
- ・LANに結ばれたパソコンを全教官に配布しセキュリティを確保したソフトウェアを開発する予算が(3)以外に必要。
- ・可能であれば別途予算措置をお願いしたい。
- ・「履修要項」の印刷経費は教官当積算校費を充当しているため金額的制約がある。シラバス作成のための特別な予算措置が必要である。
- ・電算処理により作成するための予算措置。
- ・将来は各大学間を広域でネットワークし単位互換制度を充実させることが望ましくこの観点からはシラバス情報センターの存立などに対する予算措置が必要となる。
- ・平成8年度のシラバスは冊子化しないこととしたので、当該経費を計上する必要はなくなったが、学生配付用シラバス増し刷り代の実態を把握した上で、何らかの予算措置が必要と考えられる。
- ・特別の予算措置があるとシラバスの作成の自由度が増す。

- ・ シラバス作成に対する特別予算措置。
- ・ 特別な予算措置を希望する。
- ・ 作成に要した経費を全額保証(特定の予算として)してくれる予算措置。
- ・ シラバスをより充実したものにするには、シラバス作成経費等の予算措置。
- ・ シラバスは教育を効率的に進めるために大変有効であり冊子により印刷して学生に配布しているのでこのための予算を要求したい。シラバスを平成7年度からデータベース化しているが、毎年シラバスが更新されるためデータベースの更新に係る経費についても予算措置して欲しい。
- ・ 教育改革、教育指導経費等でシラバス作成に使える予算。
- ・ 作成に要する実績額の予算配分が必要である。
- ・ 学部予算からの支出ではなく、別の予算措置が望まれる。
- ・ シラバス作成経費(大学全体)としての予算措置。
- ・ 今後内容の充実を図り、頁数が増せば作成経費が多額になることから文部省としてシラバス作成費の予算措置化を希望します。
- ・ 改訂版発行等のための経常的経費を毎年度必要とする。
- ・ 予算内で行うには、おのずと内容等に限度があるので、より充実するための予算が必要と思われる。
- ・ 特別な予算措置が必要。
- ・ 新たにシラバス作成経費が必要と思われる。
- ・ 特別経費として予算配分。
- ・ シラバス作成経費及びシラバス掲載の参考図書等の購入経費を合わせた予算措置が必要だと感じます。
- ・ 本学では教務関係経費として毎年予算措置をしている。

- ・学部の予算委員会に諮り認められた上で作成してきたが、別枠で予算措置が講じられれば良いと思う。
- ・毎年作成するものであり大学全体では多額となるため特別な予算措置が必要である。
- ・今後一層充実させていくためには、経費を特に考慮していく必要があると思うので、予算措置をお願いしたい。
- ・作成経費の配分。
- ・シラバス推進経費等、大学として負担できるよう(学部負担でなく)予算措置を願いたい。
- ・現在学長裁量経費で措置されているが、シラバス作成スケジュールに合わせて早期に予算配分していただきたい。
- ・大版化に対応する予算増額。
- ・別途経費を設定して欲しい。
- ・シラバス作成には研究費を割いているので大学としてシラバス作成経費の予算措置が必要。
- ・中央経費より作成費が支出されているため、別途シラバス等作成のための予算措置が必要と考える。
- ・シラバスを別刷として配布するための予算。
- ・文部省において、事項指定の要求として各大学の刊行計画に基づく予算措置が必要である。
- ・シラバスを作成するためにはかなりの経費が必要となるのでシラバスの作成経費が別途示達されるとよい。
- ・現在は学内予算で措置しているが、定期的なものでもあり、文部省からの恒常的な予算措置が必要と考えています。
- ・既定経費で捻出しているため、特別の予算措置が望ましい。
- ・毎年度、必要とするものであることから基準経費として措置する必要がある。

・シラバスの毎年発行には、相当な費用を必要とするため、データベース化が必要と思われるので、そのための予算措置（ワークステーション等の機器の設置、データベース化そのものの費用等）

・今後も毎年シラバスの発行が計画されており、別枠での予算措置を要望する。

・現在のところ学部共通経費により予算計上しているがシラバス作成経費の予算措置を願いたい。

・シラバス情報のマルチメディア化に対応できる予算措置(人件費を含む)が望まれる。

・通常の予算に計上されていないため特別の予算措置される必要がある。

・教育方法改善経費のような別途予算があればよい。

・学生積算校費等の規定予算内で措置されているが、これらの作成費用として特別配分を行ってほしい。

・学部予算への負担が大きいため、別途の予算措置を必要とする。

・授業改善に関する経費として計上していただきたい。シラバスのデータベース化に向けた経費等も必要である。

・シラバスのデータベース化のための予算。

・シラバス作成には個人の段階から最終印刷の段階までそれなりの経費がかかっている。少なくともその余分の経費の予算は措置されるべき。

・大学教育改革に要する経費として恒常的な予算措置が必要。

・今後毎年シラバスを作成していくため経常的な予算措置をお願いします。

・シラバス作成経費は、毎年度必要のため当初予算で積算計上する必要がある。

・別途予算措置が必要である。

・作成に要した経費の予算措置。

- ・作成をすべて業者に委託できるか、少なくとも学生アルバイトが雇える程度の予算措置が必要。
- ・特別枠。
- ・学生当積算校費から支出されているため、他の教育予算を圧迫している。また、より充実したシラバスを学生に提供するためには、十分な予算措置が必要である。
- ・学部毎に一定の教務予算が必要である。
- ・毎年、シラバス作成のための定期的な予算枠を確保する必要がある。
- ・シラバスの充実のためにも恒常的な予算措置が必要であると思われる。
- ・当初予算での確立した予算措置が必要と考える。
- ・データベース化するならば、入力・出力の経費が必要である(人件費・コンピュータ等)
- ・学内措置として学生経費から支出しているが、別途シラバス作成経費として予算配分が望まれる。
- ・装丁などを工夫するためには、より予算措置が必要だと考えられる。
- ・教育効果を上げること、教育改革の一環とする等の観点からより充実したシラバスを作成するための経費が必要である。
- ・年度当初に予算化をしておく必要がある。
- ・今後は全学生への配布を考慮しており、なんらかの予算措置をお願いしたい。
- ・印刷費、シラバス作成の為の事務機器の整備の為の予算措置。
- ・シラバスの内容充実及び電子情報化への対応を考慮すると格別の予算措置が必要である
- ・作成に要する経費全額予算措置してほしい。
- ・シラバス作成用に特別枠の予算措置を講ずる必要がある。
- ・学生掛(あるいは担当する掛)へシラバス作成のための予算が必要である。

- ・現在校費で計上しているが出来ればシラバス作製費は特別に補助を講じて欲しい。
- ・作成経費を別途予算措置してもらいたい。
- ・外注できるための予算計上が望まれる。
- ・シラバスは学部学生及び大学院学生にとって履修計画を立てる上で必要不可欠なものであり、恒常的に予算措置を必要としていることから、経常的な予算配分を求める。
- ・事項指定経費として、別途配分されればよい。
- ・すばらしいシラバスを作成しようとするれば必要経費の全てを文部省の予算から支出すべきである。
- ・教官当積算校費等から拠出しているが、別事項立てして予算措置できればと考える。将来的には学内LAN等を利用して供給できる体制を必要と考えるので、そのための恒常的な予算措置を考慮願いたい。
- ・学部改革に関する恒常的な予算措置が必要である。
- ・シラバス作成経費については、大学改革推進経費(一般分)が予算措置されているが、十分ではないため、不足額を学生当積算校費から捻出せざるをえない状況であり、学部経費を圧迫している。よってシラバス作成経費について特別のご配慮をお願いしたい。
- ・予算要求の項目として上げてよいと思う。
- ・せめて私大並のシラバスを作るだけの予算措置は必要だろう。また、シラバスのON-LINE情報化などを推進していく必要がある。そのためには今後は、コンピューターによる教務事務の処理を促進するなどの予算措置を講じる必要がある。
- ・これまでの校費とは別途に教育改善にふりむけられる予算が必要である。現状では研究費からまわしていることになっている。
- ・毎年必要な経費として、別途確保が必要。
- ・毎年作成するものなので、恒常的な予算措置が必要である。
- ・毎年作成ということになると金額が大きいので別途予算措置があれば良いと思う。

- ・現在作成しているシラバスを更に充実させるためにシラバス作成経費として十分な予算配分を願いたい。
- ・教養教育のシラバスを必要とする学生全員に配付できる予算。
- ・本学では、当積算校費から予算を捻出しているため、別途予算措置をお願いしたい。
- ・学部予算がきびしい折、学生の自立的な勉学意欲を高めるためにも、学生に対する公報活動に関する予算の一部として計上して頂きたい。
- ・上記のように多額の経費が毎年かかることになるので、恒常的な予算の補助が必要である。
- ・シラバス作成のための予算措置。
- ・シラバス作成費用。
- ・毎年作成し質のいいものにするには、予算枠をもうけていただきたい。
- ・一冊の頁数も多く、毎年、多数の部数を作成する必要があり、印刷代の予算措置が望まれる。
- ・予算措置が必要。
- ・他の印刷物も多いため、若干の予算措置必要。
- ・作成費用が高いため、特別予算の配分が必要である。
- ・シラバス作成のための印刷費、資料収集費等の予算措置が必要である。
- ・共通計費で印刷しているので継続を考えると専用の予算措置が必要。